

保存担当学芸員研修 (⑤保05-11-1/5)

(1) 保存担当学芸員研修

保存担当学芸員研修 日程：2011（平成23）年7月11日（月）～22日（金）、参加者数：27名

資料の「保存」は博物館や美術館といった文化財施設に課せられた大きな使命であるが、これは単に「保管」することではなく、資料の「文化財」としての価値が環境要因に起因する物理的、化学的変化によって損なわれることを防ぎ、後世に伝えることである。従って、「保存」は極めて自然科学的な行為であるが、それにも関わらず保存を担当する学芸員がそのための専門知識や技術を学ぶ機会は極めて乏しい。そのため、東京文化財研究所では、昭和59年以来毎年、資料保存を担当する学芸員などを対象とした「博物館・美術館等保存担当学芸員研修」を実施し、現場で自らの手で保存環境を把握し、必要な改善を行うことの出来る人材を育成してきた。これまでの修了生は700人近くに達し、各地で保存の重責を担っている。平成23年度は、28回目となる本研修を2週間実施した。

7月11日（月）

石崎武志「保存科学 総論」

佐野千絵「保存環境 各論 一文化財の材質・構造一」

吉田直人「保存環境 各論 一光と照明一」

朝賀浩（文化庁）「保存環境 各論 一文化財公開施設の設計一」

木川りか「生物被害 概論」

7月12日（火）

犬塚将英「保存環境 各論・実習 一温湿度一」

木川りか「生物被害 概論」

小峰幸夫（文化財虫害研究所）・木川りか「生物被害 実習 一文化財害虫同定一」

7月13日（水）

佐野千絵「保存環境 各論一室内汚染一」

山本記子（保存修復支援技術者 絵画・書跡）・木川りか「生物被害 実習 一カビの除去一」

山本記子「劣化と保存 各論 一日本画一」

三浦定俊「博物館の設備 一防災・防犯一」

木川りか「生物被害 実習 一トラップデータ解析一」

7月14日（木）

早川泰弘「保存環境 各論 一大気汚染一」

犬塚将英「文化財の科学的調査」

吉田直人「保存環境 実習 一室内汚染の測定法一」

ケーススタディテーマ打ち合わせ

7月15日（金）

山口孝子（東京都写真美術館）・白岩洋子（写真修復家）「劣化と保存 各論・実習 一写真一」

神庭信幸（東京国立博物館）「東京国立博物館における講義・見学」

7月19日（火）

木島隆康（東京藝術大学）「劣化と保存 各論 一油彩画一」

土屋裕子（東京国立博物館）「劣化と保存 各論 一修復材料一」

犬塚将英「温湿度実習解説」

森井順之「激甚災害と文化財施設」

木川りか・佐藤嘉則・小野寺裕子「水損紙資料の応急処置 一スクウェルチ法一」

⑤研究指導・研修等 Area22

7月20日（水）

「環境調査実習 ―ケーススタディー」（於：八千代市立郷土博物館）

7月21日（木）

加藤雅人「劣化と保存 各論 一紙一」

北野信彦「劣化と保存 各論 一漆工品一」

高妻洋成（奈良文化財研究所）「劣化と保存 各論 一考古資料一」

ケーススタディ発表

7月22日（金）

北野信彦「劣化と保存 各論 一民具一」

石崎武志「劣化と保存 各論 一屋外の文化財一」

研修参加者：久永茂人、伊達元成、前村文博、岡野雅枝、折井貴恵、宮下聡史、高橋典子、矢野進、高橋悠介、早田旅人、清水緑、大楽和正、渡辺礼子、平林研治、大島徹也、門口実代、奥田晶子、川勝美早子、藤田淳、松原祥子、中村麻里子、村山望、杉山未菜子、片多雅樹、奥野正太郎、山田貴司、和田一之輔
所属：国立国会図書館、伊達市噴火湾文化研究所、宇都宮美術館、富岡製糸場総合研究センター、川越市立美術館、八千代市立郷土博物館、出光美術館、世田谷美術館、神奈川県立金沢文庫、平塚市博物館、三溪園保勝会、新潟県立歴史博物館、砺波市立砺波郷土資料館、三島市郷土資料館、愛知県美術館、三重県生活文化部新博物館整備推進室、彦根城博物館、島津製作所創業記念資料館、兵庫県立考古博物館、松江歴史館、岡山県立美術館、高知県立美術館、福岡市博物館、長崎県埋蔵文化財センター、長崎原爆資料館、熊本県立美術館、文化庁美術学芸課

(2) 博物館・美術館等保存担当学芸員研修フォローアップ研修 ―今後の生物被害対策のあり方―

1981（昭和56）年より毎年、当研究所で開催している博物館・美術館等保存担当学芸員研修の修了者数は600人を超えた。修了生の尽力によって、収蔵・展示環境は大きく改善し、またそのための知識も広く認識されるに至った。しかし、この間にも、科学の進歩とともに、館内環境改善のための技術は発展し続けている。また、地球温暖化、夏季や大震災後の節電対策など、最近の博物館・美術館をとりまく情勢にも、以前には見られなかった変化が生じている。このような状況に伴い、従来とは異なる知識が学芸員に要求されている。本研修では、保存担当学芸員研修修了者を対象に、その職務に必要な最新の知識を常に持つことを目的に、再研修を行おうとするものである。

日程：2011年6月27日（月）、会場：東京文化財研究所、参加者：87名

プログラム・講師

佐野千絵「生物被害発生時の対応」

三浦定俊（客員研究員・公益財団法人文化財虫害研究所理事長）

「文化財虫害研究所における薬剤認定について」

木川りか「巡回展などでの生物被害対応の流れについて」

木川りか「被災文化財レスキューにおける初期対応について」

木川りか、佐藤嘉則、小野寺裕子「スクウェルチ法のデモンストレーション」

(3) 資料保存地域研修

博物館・美術館などの文化財公開施設における資料保存は、保存を担当する学芸員の力だけによってなされるものではない。学芸員以外の館長、事務職や警備員、監視員、空調機器の管理・保守作業員など、博物館の様々な業務に携わる多くの人々が共同で行うものである。本研修は文化財保護に関する知識を、文化財公開施設に勤務するできるだけ多くの職員に理解してもらうため、各地の博物館協議会などの協力を得て開催するものである。

〔第16回〕 日程：2011年11月16日（水）～17日（木）、会場：熊本市現代美術館

共催：財団法人熊本市美術文化振興財団、後援：熊本県博物館連絡協議会・熊本県市町村文化財担当者連絡協議会、参加者：67名

プログラム・講師

《第1部》資料保存環境の基礎

石崎武志 「保存環境概論」

犬塚将英 「温度と湿度」

吉田直人 「光と照明」

佐野千絵 「空気環境」

佐野千絵 「生物被害概論」

《第2部》現代美術系施設における保存

佐野千絵 「設計から見た現代系美術館の特徴」

吉田直人 「現代美術館における資料管理の在り方」

連携大学院教育 (⑤共)

東京藝術大学：システム保存学（保存環境学、修復材料学）

1995（平成7）年4月より東京藝術大学と連携して大学院教育を行い、21世紀の文化財保存を担う人材を育成している。システム保存学は、文化財の保存環境を研究する保存環境学講座と保存修復に用いる材料について研究する修復材料学講座の2講座から成っている。各講座3名ずつ研究所所員が連携教員として研究教育指導に当たっている。

開設講座と連携教員

保存環境学講座

連携教授 石崎武志（副所長）

連携教授 佐野千絵（保存科学研究室長）

連携准教授 木川りか（生物科学研究室長）

修復材料学講座

連携教授 中山俊介（近代文化遺産研究室長）

連携教授 北野信彦（伝統技術研究室長）

連携准教授 朽津信明（修復材料研究室長）

助手 古田嶋智子（東京藝術大学大学院教育研究助手）

授業および主たる担当教員

保存環境計画論（前期） 佐野千絵 連携教授

修復計画論（前期） 北野信彦 連携教授

修復材料学特論（前期） 中山俊介 連携教授・朽津信明 連携准教授

保存環境学特論（後期） 石崎武志 連携教授・木川りか 連携准教授

文化財保存学演習（2011年6月14日）

「考古・民俗資料の保存修復に関する講義及び実習」

会場：東京文化財研究所

担当：北野信彦 連携教授



実習風景